

平成 30 年度 第 2 回 学校評議委員会 記録

日時 平成 31 年 2 月 26 日 (火)
14:00～15:30
会場 気仙光陵支援学校
司会 大石副校長
記録 藤原副校長

【出席者】

<学校評議員>	<学 校>
A 委員 (卒業生関係)	校長
B 委員 (進路先関係)	副校長 2名
C 委員 (地域関係)	事務長
D 委員 (地域関係機関)	教務主任
E 委員 (教育関係者)	小学部主事
	中学部主事
	高等部主事
	寮務主任

1 開会のことば

2 校長挨拶

・子どもたちは学習・行事に一生懸命取り組んできました。1, 2月はインフルエンザの流行で中学部・高等部が学部閉鎖となりましたが今は元気に生活しています。もうすぐ3月となり、卒業に向けた取り組みを行っています。今日は1年間の取り組みについてご報告いたしますのでご指導いただきたい。

3 出席者紹介・・・上記出席者のとおり

4 協議・・・(1)(2)を併せて提案 校長→教務主任→副校長(担当分掌)→学部主事→寮務主任

(1) 学校経営計画の実施状況について

【校長】平成30年度の重点について、過日行った学校評価における、職員の自己評価の達成度を報告します。

平成30年度の重点

① 個々のニーズに応じた児童生徒主体の授業づくりを推進する。

ア 教育的ニーズを的確に把握し、「個別の指導計画」の充実を図る。【学校評価95%】

イ 基礎的環境整備に努める。【学校評価96%】

② 授業研究会、校内外研修等の充実を図り、授業力・専門性の向上を図る。

ア 常に授業改善(PDCA)に努め、教職員の授業力・専門性(ICTの活用)の向上を図る。

【学校評価92%】

- イ 新学習指導要領の内容理解と活用を図る。【学校評価 85%】
- ③ 各学部・学年・発達段階に応じたキャリア教育の充実を図る。
- ア 現在及び将来の自立や社会参加に向けて、主体的に取り組める早期からのキャリア教育を小・中・高・寄宿舎の連携を図りながら計画的に実践する。【学校評価 92%】
- イ 職業教育や進路指導の充実を図るとともに、保護者・関係機関と十分な共通理解を図り、一人一人の進路実現を目指す。【学校評価 92%】
- ④ 地域に根ざした開かれた学校、信頼される学校づくりを推進する。
- ア 保護者・地域・関係機関と連携し、教育活動の充実を図る。【学校評価 94%】
- イ ホームページ、学校評価、学校評議員会等により、開かれた学校づくりを推進する。
【学校評価 91%】
- ⑤ 交流校や地域との連携を図りながら交流及び共同学習の充実を図る。
- ア 「交流籍」を活用し居住地における学習活動の一層の工夫と充実を図り、保護者や相手校と成果を共有する。【学校評価 93%】
- イ 学校間交流や地域交流の一層の工夫と充実を図る。【学校評価 99%】
- ⑥ 地域の特別支援教育の進展のため、特別支援教育センター的機能の充実を図る。
- ア 校内外の知的財産を活用し、研修及び実践を図りながら特別支援教育の専門性向上を目指す。校外情報について校内職員にも情報提供をし、専門性を共有していく。【学校評価 93%】
- イ 特別支援センター校として地域の特別支援教育の充実と啓発に努める。【学校評価 96%】
- ⑦ 健康と安全な生活のため、健康・安全教育及び防災・復興教育を推進する。
- ア 日々の健康観察、スクールカウンセラー、機関コンサルテーション等を活用し、心と体のケアを行う。
【学校評価 89%】
- イ 各学部に応じた健康・安全教育に計画的に取り組むとともにいじめの未然防止を図る。
【学校評価 98%】
- ウ 防災の知識や安全な生活について学び、「考える・行動する」ことができるよう防災教育の充実を図る。【学校評価 99%】
- エ 自己有用感を育みながら、多様な地域活動に取り組み、復興教育を推進する。【学校評価 94%】
- 殆どの項目で職員の自己評価が90パーセント以上を超える結果となりました。学習指導要領の理解については、低めですが今後重点として対応できる体制になっていますので、今後更に自己評価が上がるよう取り組んでいきたい。

【各校務分掌の取り組み】

(教務主任、副校長) 資料のとおり

(2) 各学部・寄宿舎運営計画について

(各学部・寮務主任) スライドによる紹介

(3) 学校評価結果について

① 実施機関 11月22日(木)～12月10日(月)

② 対象 本校職員78名 保護者71名 児童生徒73名

以下別紙のとおり

5 報告

- (1) 平成30年度の進路状況について
別紙のとおり
- (2) コンプライアンス結果について
別紙のとおり
- (3) 働き方改革について
別紙のとおり

【質疑・助言】

○E 委員

- ・教育課程の変更で時間数が1時間増えたことで先生方が今よりエネルギーを使うのではないか。どのような内容でやっていくのか。

<回答>

- ・特別支援学校では「教科等を合わせた指導」というひとつの授業の中いくつかの教科を盛り込む特別支援学校の特色となる学習がある。今回増やす内容は「教科」であり、新学習指導要領の方針では教科の学習もしっかり行っていきましょうという流れがある。本校もその方針を踏まえて新しい教育課程に反映させていきたい。

○A 委員

- ・総務部のPTA行事について、多忙化などさまざまな理由があると思うが研修会を減らすのは寂しい気がする。行事の良さを伝える方法があるとよいと思う。親を動かすために親が連携とれる方法考えてほしい。

<回答>

- ・PTA理事会で話題となった。行事を減らす方法ではなく取り入れ方の工夫を考えているところ。研修会は2回から1回とするが、保護者アンケートをもとに内容についての精選を図っていく。

○C 委員

- ・進路指導部でアフターの回数が増えていると説明があるが、他の学校も同じ状況が多いと聞くが、具体的な回数や内容について教えてほしい。

<回答>

- ・回数は電話対応等も含めて3桁となっている。内容としては離職者に関する件数が増えているが、今は相談機関があるので学校が直接抱え込むのではなく、連携して行っているケースが多い。

5 閉会のことば